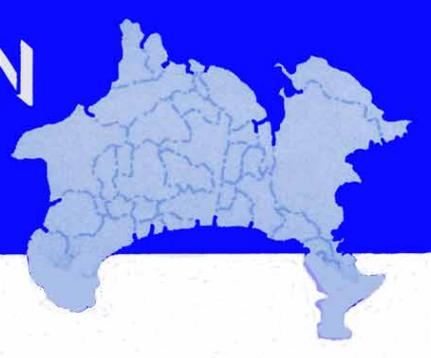


# HAMAGINSOUKEN NEWS



2007年9月27日

## 3 四半期連続で悪化した神奈川県内中堅・中小企業の景況感

—— 企業経営予測調査2007年9月調査結果 ——

### 要 旨

#### 景況感

神奈川県内中堅・中小企業の2007年9月末時点における業況判断D. I.（全産業ベース、業況が「良い」－「悪い」、回答社数構成比、%）は▲9と前回6月調査に比べて3ポイント低下した。県内中堅・中小企業の景況感は3四半期連続で悪化している。

今回の業況判断D. I. 値を製造業、非製造業の別にみると、製造業は一般機械や電子部品・デバイスなどで景況感が悪化した一方で、情報通信機械や金属製品が改善したことなどから全体では前回調査比横ばいの▲4となった。一方の非製造業は運輸・倉庫などで景況感の改善がみられたものの、飲食店・宿泊やサービス、小売が悪化したことなどから前回調査の▲7から▲12へと5ポイント低下した。

3か月先（12月末）の見通しについては、製造業が「良い」超に転じ、非製造業も「悪い」超幅の縮小が見込まれていることから、全産業の業況判断D. I. 値は▲5と9月実績に比べて4ポイント上昇する。

足下における県内企業の景況感は、天候不順などを背景に個人消費が弱含んだことを映じて悪化したものの、県内景気の回復が持続する中で年末に向けて改善が見込まれている。

#### 来春の新卒採用計画

2008年春の新卒採用計画について尋ねたところ、回答企業701社の採用予定者数は2007年春を17.4%上回った。ただ、「予定通り確保できる」とする企業は全体の10.8%にとどまり、反面で「確保できない」とする企業は38.2%にのぼった。退職者の増加や業績の回復を背景に県内中堅・中小企業の採用意欲は旺盛であるものの、人手の確保は厳しいという実態が明らかになった。

【本件についての問い合わせ先】  
㈱浜銀総合研究所 調査部 新瀧  
電話 045-225-2375(ダイヤル)

E-mail: [shintaki@yokohama-ri.co.jp](mailto:shintaki@yokohama-ri.co.jp)

## 企業経営予測調査

2007年9月実施

### 四半期別（第145回）結果

対象企業 神奈川県内の中堅・中小企業を中心とした1,424社  
(うち製造業456社、非製造業968社)

回収率50.2% (回答企業715社うち製造業273社、非製造業442社)

### 業況判断D. I. (2007年9月末)

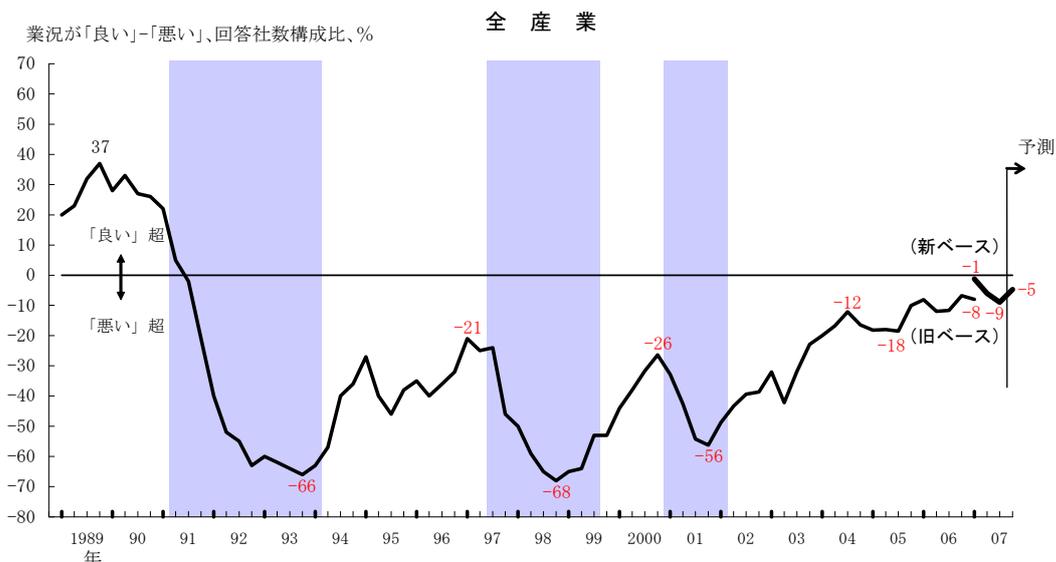
2007年9月末時点の神奈川県内中堅・中小企業の業況判断D. I. (全産業ベース、業況が「良い」-「悪い」、回答社数構成比、%)は▲9となり、前回6月調査に比べて3ポイント低下した。景況感が悪化するの3四半期連続のこととなる(注)。

製造業、非製造業の別にみると、製造業は前回調査比横ばいの▲4となった。内訳をみると、一般機械や電子部品・デバイス、輸送用機械などのD. I. 値が低下した一方で、情報通信機械や金属製品、化学・石油では上昇している。

一方の非製造業は、前回調査の▲7から▲12へと5ポイント低下した。内訳をみると、運輸・倉庫と建設は販売価格の下げ止まりや売上高の持ち直しなどを背景に「悪い」超幅が縮小した。反面で、飲食店・宿泊やサービス、小売などでは天候不順などを背景に個人消費が弱含んだことを反映して景況感が悪化した。

(注) 本企業経営予測調査は2007年3月調査から調査対象企業を770社から1,434社へと拡大した。回答企業全体の業況判断D. I. は2006年12月の▲7から2007年3月の▲1へと上昇したが、継続調査企業で比較すると▲7から▲8へと1ポイント低下している。このことから、当社は2007年3月の景況感は3か月前比悪化と判断している。

### 業況判断D. I. の推移



(注1) 各年の調査月は3、6、9、12月である。シャドローは景気後退期を示す。

(注2) 2007年3月調査から調査対象企業等の見直しを行なったことから、2006年12月調査以前と2007年3月調査以降の計数は連続しない。以下同様。

(3か月先の見通し)

2007年12月末時点の業況判断D. I. は、全産業で▲5と9月末に比べて4ポイント上昇する見通しとなっている。

製造業では、一般機械と金属製品では景況感の悪化が見込まれているものの、食料品や化学・石油など他の業種でD. I. 値が上昇することから、全体でも今回調査の▲4から4へと景況感が改善する見通しとなっている。

一方、非製造業では不動産や建設、サービスが悪化を見込んでいるものの、飲食店・宿泊や卸売、小売で改善予想となっていることから、全体のD. I. 値は▲10と9月末に比べて2ポイント上昇する見通しである。

足下の業況判断D. I. と3か月先の見通し

(業況判断D. I. : 業況が「良い」マイナス「悪い」の回答社数構成比、%)

	旧ベース		新ベース			
	2006年 12月末	2007年 3月末	2007年 3月末	2007年 6月末	2007年 9月末	2007年 12月末 (予想)
全産業	▲7	▲8	▲1	▲6	▲9 (▲3)	▲5
製造業	▲6	▲1	▲3	▲4	▲4 (0)	4
一般機械	12	17	12	25	8 (11)	▲5
電気機械	10	6	▲13	▲17	▲21 (▲7)	▲8
情報通信機械	▲11	33	14	▲25	▲8 (0)	8
電子部品・デバイス	14	▲17	6	13	▲4 (0)	8
輸送用機械	▲18	▲18	▲24	▲7	▲14 (0)	▲5
食料品	0	▲17	0	0	0 (14)	28
化学・石油	▲53	▲43	▲12	▲27	▲21 (▲19)	4
鉄鋼・非鉄	33	70	57	46	43 (46)	43
金属製品	0	17	0	▲3	8 (6)	4
非製造業	▲8	▲13	0	▲7	▲12 (▲5)	▲10
建設	▲14	▲27	▲5	▲8	▲7 (▲5)	▲9
不動産	—	—	9	16	4 (16)	▲4
運輸・倉庫	0	▲4	13	▲9	▲2 (0)	▲2
卸売	3	▲33	▲6	▲20	▲23 (▲7)	▲15
小売	▲29	▲10	▲12	▲26	▲32 (▲20)	▲25
情報通信	0	▲11	▲22	6	0 (0)	0
飲食店・宿泊	—	—	6	27	▲12 (7)	6
サービス	3	3	8	2	▲5 (▲4)	▲7

(注) カッコ内は前回6月調査時点における9月末予想である。

(トピック)

来春の新卒採用計画について

2008年春の新卒採用計画について尋ねたところ（回答企業701社）、2008年春の採用予定者数は、全産業ベースで今春の採用者数を17.4%上回った。内訳をみると、非製造業が19.7%増と製造業（12.8%増）を上回る伸びとなっている。

こうした新卒採用の増加の理由としては、従業者年齢構成の若返りや団塊の世代の退職に伴う人員補充などに加えて、増産や拡販に伴う人員増加の動きが出てきていることがあげられる。

ただ、採用予定数の確保状況をみると、「予定通り確保できる」とする企業は全体の10.8%にとどまり、前回(2006年9月)調査の19.9%から大きく低下した。反面で「確保できない」とする企業は38.2%と前回調査の25.1%に比べて大幅に上昇している。このように退職者の増加や業績の回復を背景に県内中堅・中小企業の採用意欲は旺盛であるものの、人手の確保は厳しいという実態が明らかになった。

来春卒業予定者の採用計画

	今春 採用者数 (人)	来春 採用予定者数 (人)	増加人数 (人)	増加率 (%)	回答 企業数 (社)
全産業	2,179	2,558	379	17.4	701
製造業	732	826	94	12.8	265
非製造業	1,447	1,732	285	19.7	436

来春採用増加予定企業の採用増加理由（複数回答）

(回答社数構成比、%)

	退職者補充	増産・拡販	研究開発 の拡充	新分野への 進出	従業者年齢構 成の若返り	時短推進	回答社 数計
全産業	64.0	46.8	10.8	10.8	66.2	4.3	139
製造業	61.7	46.7	23.3	13.3	61.7	6.7	60
非製造業	65.8	46.8	1.3	8.9	69.6	2.5	79

来春卒業予定者の採用予定数の確保状況

(回答社数構成比、%)

	確保できる	ほぼ確保できる	確保できない	回答社数計
全産業	10.8	51.0	38.2	343
製造業	11.4	49.0	39.6	149
非製造業	10.3	52.6	37.1	194
前回調査 (2006年9月)				
全産業	19.9	55.0	25.1	191
製造業	17.8	58.9	23.3	90
非製造業	21.8	51.5	26.7	101

以上